



ハートだより

香川県立高松支援学校
人権・同和教育部
2024年5月31日発行
第57号



「常識を洗い流す」

教頭 野田 知 良

今年の大河ドラマは『光る君へ』。時は約1000年前の平安の世。吉高由里子演じる紫式部の「まひろ」が、時の権力者藤原道長を中心とする藤原家をはじめとした貴族や天皇家とのかかわりのなかで、どのように生きたのかが描かれています。平安時代、当時の女性の本名は不明で、「まひろ」の名も創作。「紫式部」という呼称も、貴人に仕事として勤める際に、本名は名乗らないしきたりだったので、お勤めしているときに使われた呼び名（「女房名」（にようぼうな））なのです。そして、この呼び名は、「まひろ」の父、岸谷五朗が演じる藤原為時のお役人としての職名（官職）が「式部丞（しきぶのじょう）」だったことからきており、最初は「藤式部（とうしきぶ）」と呼ばれていたとか……。また、「藤」から「紫」になったのもよくわからない……。諸説あり、とのこと。

いにしえの呼び名のことはさておき、紫式部が「源氏物語」を執筆したことを考えれば、とても秀でた才能のある女性として、宮中で活躍したことに間違いありません。では、庶民の暮らしはどうでしょう。ドラマでは、まひろが農民の女の子に文字を教えているシーンが描かれています。時は平安時代、身分の確固たる社会。女の子の父親が叫びます。

「文字なんかいらねえ。俺たちの娘は、一生畑を耕して死ぬんだ。俺らはあんたらお偉方の慰み者じゃねえ。」

令和の世とは違います。農民の父親からすれば、平安の世では、まひろの行動は不適切にもほどがある、といったところでしょうか。まひろにとってもショックな出来事として描かれています。振り返って令和の自分ははどうでしょう？昭和生まれの私が感じていること、経験したことが常識として通用しないものも増えています。常に考え方をバージョンアップしないと、ドラマ「不適切にもほどがある！」の阿部サダヲ扮する中学校体育教師のように、時代にそぐわなくなっていきそうです。

いつの時代も、一人ひとりの多様な生き方を認めていくことが大切だとすれば、まひろは「慰みもの」として女の子を扱い、文字を教えたのではない。女の子の学ぶ意欲に応えて、笑顔が見たいだけなのに、ただ、父親がもつ平安の世の「常識」には通用しなかった。

「常識を洗い流す……」テレビの話ばかりで恐縮ですが、ウタマロ石鹸のCMで、最後にこのことばと女性アナウンスが入ります。妙に心に刺さりました。「障がい」や性別、人種など関係なく、一人ひとりの人権を認め合う社会を目指して、いつの時代もしなやかな感性と寛容な心をもっていたいものです。そこが肝要……でしょうか。





人権・同和教育部 今年度の行事予定



児童生徒の人権学習

○人権・同和教育学習期間

前期 6月10日～21日

後期 10月7日～25日

○田村文化センター文化祭（11月）

○校内人権作品展

（11月12日～12月20日）

○高松市人権作品展（12月）

人権研修会・研究大会

○四国地区人権教育研究大会 （高知市 7月4日～5日）

○田村文化センター職員現地研修会 （8月23日）

○香川県人権・同和教育研究大会 （高松市 10月25日）

○悉皆「人権・同和教育研修」 （11月14日）

○全国人権・同和教育研究大会 （熊本市 11月30日 12月1日）

○人権・同和教育指導者研修会 （高松市 1月中旬）

人権だよりの発行

「ハートだより」（5月・10月・2月）



～「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（差別解消法）が改正されました～

2024年4月から、行政機関だけでなく、民間の事業者にも、障害を理由とした不当な取り扱いを禁止するほかに、障害者から社会的障壁（バリア）の除去の意思表示があった際に、過重な負担にならないときは必要かつ合理的な配慮を行うことが義務付けられました。その際、申し出をする側と受ける側の両者の、「建設的対話」が重視されています。「何ができて何が苦手なのか」、「こうすればできる」ということを伝え合い、柔軟な対応をすることが求められます。全ての人にとって生きやすい共生社会に向けて、お互い対話を大切にし、取り組んでいければと思います。

合理的配慮の事例



○店の出入口に段差があるので入店が難しい。

→介助をしたり、携帯スロープなどをつけて補助したりした。

○飲食店で車椅子のまま着席したい。

→机に備え付けの椅子を片付けて、車椅子のまま着席できるスペースを確保した。

○申込書類に記入することができないため、店員に代筆してほしい。

→十分に本人の意向を確認した上で、店員が代筆した。記入内容について見解の相違が生じないように他の店員が立ち会った。

○店舗の出入口が押し引きして開けるドアのため、一人で出入りするのが難しい。

→出入口に着いたところで店舗に電話をかけて来店したことを伝え、店員がドアを開閉した。